



ほりうち・としひこ 昭和12年生まれ、宮内在住。趣味は合唱・映画観賞・書道。万田坑ファン倶楽部では取材対応や情報提供・イベントへの協力・ガイドなどを行っています。

万田坑ファン倶楽部 顧問

堀内敏彦さん

万田坑を含む「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」が世界文化遺産候補として、政府からユネスコに推薦されることになりました。その万田坑で元炭鉱マンとしての経験を生かし、ガイドを務めるのが堀内敏彦さんです。「生きていくため、家族を養うために炭鉱で働く人たちは必死でした」と、堀内さんは当時を振り返ります。鉱山学校卒業後、18歳で炭鉱マンになった堀内さん。石炭を掘る掘進という仕事に従事してきました。炭鉱の仕事は賃金などの待遇がよい分、命の危険を伴います。堀内さんも3回大きな事故に遭い、多くの仲間を失いました。そんな危険と隣り合わせの職場だからこそ炭鉱マンは互いを信頼し、強い絆で結ばれていたそうです。

「あの時代の会社は包容力がありました。感謝しています」と、堀内さんは話します。堀内さんは33歳のとき大病を患い、現場を離れることになりましたが、事務職として復職しました。炭鉱で働く限り、会社は労働者の能力に見合う仕事を必ず用意してくれました。また、会社が企画する運動会などを働く人たちは何よりも楽しみにしていました。度重なる事故や争議を経験しながらも、炭鉱で働く人たちは誇りを持って仕事に臨んできました。しかし、平成9年に三井三池炭鉱は閉山を迎えました。「寂しさも感じましたが、誰も事故に遭わなくなることには安堵しました」と、堀内さんは話します。若くして亡くなった仲間の分も次の世代に炭鉱の歴史を伝えるため、堀内さんはガイドとして万田坑に戻ってきました。鉱山用語を分かりやすい言葉に言い換えるなど工夫を凝らしたガイドは見学者に大好評です。「ガイドを通して、多くの人に当時の様子を知ってほしいです。将来的に万田坑が世界遺産に登録され、世界中の人に来てもらえたらうれいですね」と、堀内さんは笑顔を見せました。堀内さんのガイドに耳を傾けながら万田坑を見つめていると、炭鉱で懸命に働いた人たちの姿が鮮やかに蘇って見えたとような気がしました。



1 「山ノ神」。入坑前に安全祈願をするなど、炭鉱で働く人たちは山の神を敬っていました。2 「また来たい!」と見学者に思ってもらえるような魅力的なガイドができるようにガイドの皆さんは日々励んでいます。3 万田坑ガイドの皆さん。前列左から瀬戸さん、山元さん、堀内さん、中島さん。後列左から坂口さん、福岡さん、鍋田さん、慶田さん、武田さん。